

セントピアあわら



アセロラと ドラゴンフルーツ栽培

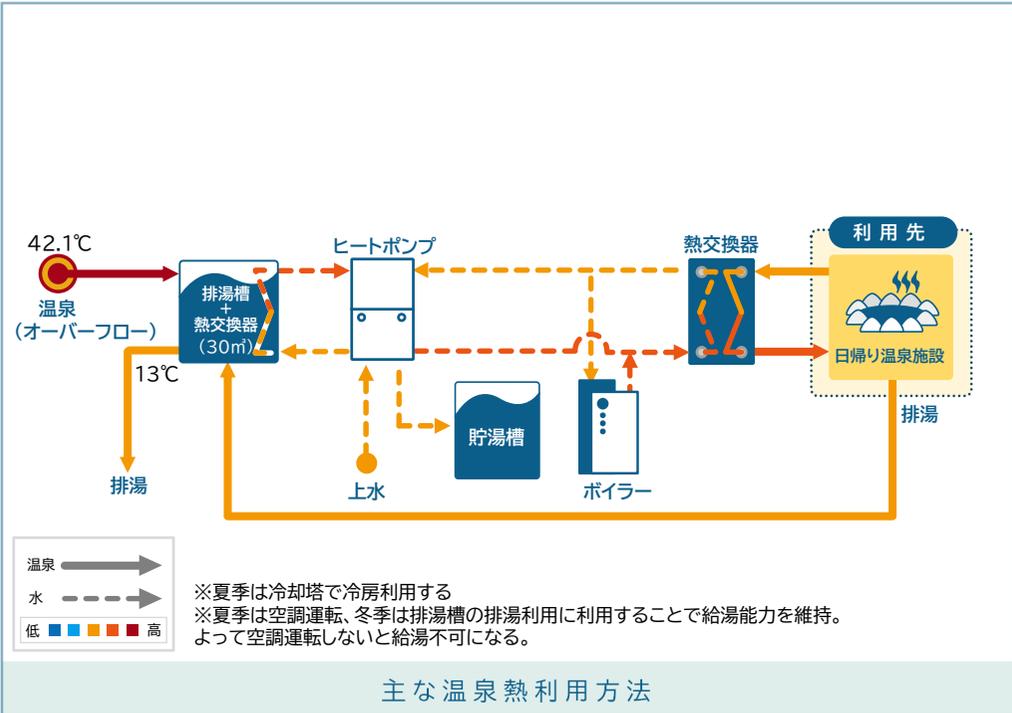


概要

使っていない温泉と、温泉として利用した後の温泉排湯を利用して、ヒートポンプで熱回収を行い、施設内の浴槽昇温やシャワー等に活用している。



泉質	塩化物泉	CO ₂ 排出量削減効果	エネルギーコスト削減効果
熱利用温度	42℃(温泉)・18℃(排湯)		
利用温泉	既存温泉		
総事業費	8,000万円 (一部補助金あり)		



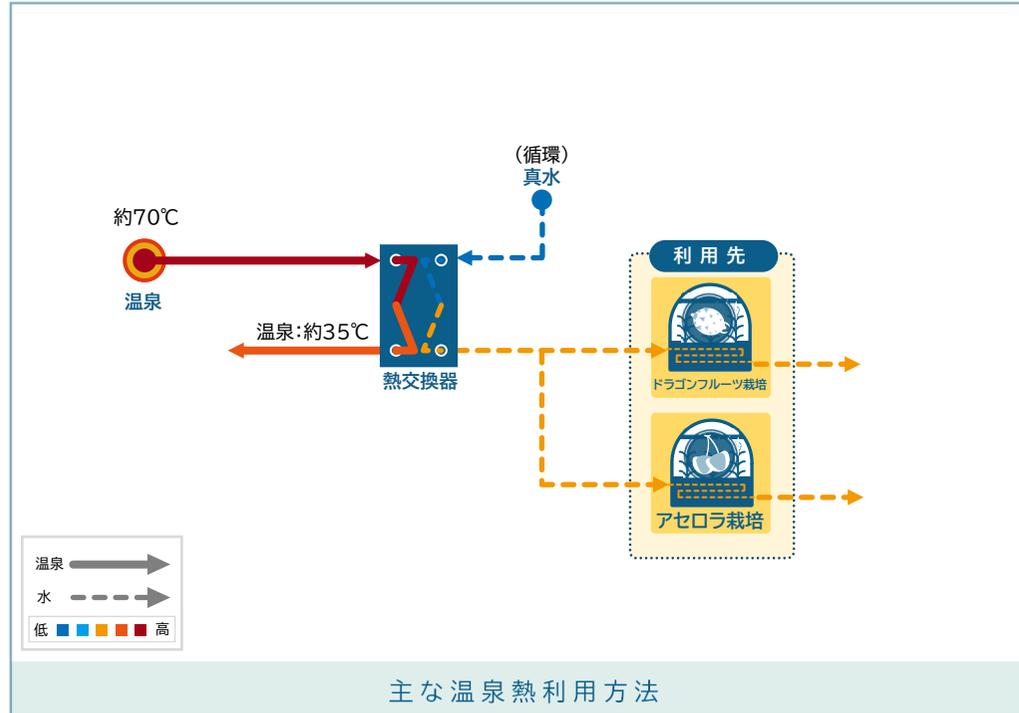
※本事例は「平成29年度・30年度温泉熱等の有効活用等普及促進調査等委託業務」にて調査・整理した事例であり、掲載情報は調査当時のものであることから、詳細な状況は変更されている可能性があります。
 ※1: CO₂排出量削減効果、エネルギーコスト削減効果は、ヒアリング先による推定値(灯油使用量削減による効果)です。

概要

環境配慮型農業が時代に求められるあり方だと考え、温泉熱の活用に取り組みはじめる。掛け流しで廃棄されていた温泉水を引き込み、熱交換で得た湯を地下に埋設したパイプに流しハウス内を暖め、ドラゴンフルーツなどの果樹を栽培。消雪にも利用。



泉質	単純温泉	主な効果	観光業+農業+地域資源でにぎわい創出
熱利用温度	-		<ul style="list-style-type: none"> ハウス運営のための雇用創出 販路拡大による商品のブランド化 地域の来訪者増
利用温泉	既存温泉		
総事業費	-		



※本事例は「令和2年度温泉熱等の有効活用等普及促進調査等委託業務」にて調査・整理した事例であり、掲載情報は調査当時のものであることから、詳細な状況は変更されている可能性があります。
 ※温泉熱利用に係る事業費等が不明のため、CO₂排出量削減効果、ランニングコスト削減効果は算出しておりません。